ISAP 2016 パラレルセッション 「統合的ランドスケープ管理: 知識を変革の実行に活かす効果的なアプローチ」 2016年7月13日

# 伝統的・地域的知識の再評価を通じた 統合的ランドスケープ管理

武内和彦 (東京大学/国連大学)





# SATOYAMAイニシアティブによる 自然共生社会の実現

- 生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)で採択された愛知目標の長期 目標は「自然と共生する社会の実現」
- SATOYAMAイニシアティブは「生物多様性の持続的利用」(条約第2の目的)の目的を具体化
- SATOYAMAイニシアティブ国際パート ナーシップ (IPSI)がCOP10で創設
- 社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ(SEPLS)を現代に適した形で保全、再生していく
  - 人と自然の調和的な相互作用により形成された 土地利用や生息・生育地の動的モザイク
  - 生物多様性を維持し、人々の福利に必要なモノ やサービスを提供
  - 多くの地域で、さまざまな原因により、SEPLSの 破壊や劣化が進んでいる











# ペルー・アンデス地域の 伝統的ランドスケープ(ポテトパーク)





- 異なる土地利用のモザイクからなるランドスケープの統合的管理
- 標高によって異なる農地利用(コーン→大麦→ジャガイモ→草地)



#### 農業生物多様性の保全

(ジャガイモ、コーン等)

- 品種により異なる用途
- On-site における品種保全

#### 近代的技術の活用

- 近代的な技術による種イモ生産 (耐病虫害)
- 研究機関との連携(International Potato Center: CIP)

観光の促進によるコミュニティの 生計向上



### アジア農村地域における 伝統的システムのレジリエンス



	1-7.170					
調査地区	気候・生態系/ 社会経済変動	システム	ショックに対 する対応	レジリエンス評価 (現状)	介入オプション	レジリエンス評 価(介入オプショ ン後)
ホームガーデン ベトナム インドネシア スリランカ	<ul><li>洪水/長乾季/ 降雨パターン変動/病虫害/塩水遡上</li><li>国際市場対応/ 市場経済浸透</li></ul>	VAC/プカラン ガン/キャン ディアン・ ホームガー デン	●換金作物、商 業的家畜生産 ●食料自給	気候・生態:高	<ul><li>認証制度利用</li><li>共同体形成</li><li>複合生産による物質循環強化</li><li>セーフティネット機能強化</li></ul>	気候・生態:高
				社会経済:低/		社会経済:中
<b>ベトナム</b> スゥアントゥイ	•暴風雨·洪水 •病虫害 •塩水遡上 •国際市場対応 •市場経済浸透	VAC	●商業的家畜 生産	気候・生態:中	<ul><li>認証制度利用</li><li>VACと稲作との組合わせによる経営安定化</li><li>伝統-近代的品種の組合わせ</li><li>品質改善</li></ul>	気候・生態:中
				社会経済:中/		社会経済:高
		稲作	<ul><li>灌漑取水口の 上流移動</li><li>品種選択</li></ul>	気候・生態:低		気候・生態:中
				社会経済:中		社会経済: 中
<b>インドネシア</b> グヌンキドゥル	<ul><li>長乾季</li><li>・小雨・降雨パターン変動</li><li>・洪水</li><li>・国際市場対応</li><li>・市場経済浸透</li></ul>	社会林業/プカランガン	●生業多様化 ●生物多様性	気候・生態:高→	ム構築 • 産業植林のア  グロフォレスト	気候・生態:中
				社会経済: 低 →		社会経済: 中
		産業植林	●高付加価値木 材販売	気候・生態:低→		気候・生態:中
				社会経済∶高→		社会経済: 高
スリランカ キリノチ デドゥルオヤ マハウェリH	<ul><li>乾燥・少雨化</li><li>内戦による 灌漑インフラの 破壊</li><li>国際市場対応</li></ul>	伝統的貯水タンク	<ul><li>古代灌漑システム修復/利用</li><li>多機能性</li></ul>	気候・生態:中-	<ul><li>新旧灌漑システムの統合</li><li>共同体形成</li><li>干ばつを避けるための適正資</li></ul>	気候・生態:高
				社会経済:低→		社会経済:高
		新灌漑シス	• 効率的利用	気候・生態:低		気候・生態:高
	• 市場経済浸透	テル	●拉働管理	A1 A A7 94 167	源管理システム	11 4 47 14 1

# 持続可能な開発目標(SDGs)への貢献

- □ 人間一人一人に焦点をあて、レジリエント・包括的・持続可能な「質の高い成長」の実現を目指す、経済・社会・環境の均衡の取れた「持続可能な開発」達成のための国際目標。(目標年:2030年)
- □ 2015年9月の国連総会で満場一致で採択された世界全体で取り組む目標
- SATOYAMAイニシアティブの推進は多くの目標に貢献



(国連広報センター作成)

■ 直接的に貢献するもの

💶 関係が深いもの

## SDGsにおけるレジリエンス

Goal1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

target 1.5 2030 年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々のレジリエンスを構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。

Goal2 <u>飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する</u>

2.4 2030 年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、レジリエントな農業を実践する。

Goal9 レジリエントなインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

- 9.1 すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ<mark>レジリエント</mark>なインフラを開発する。
- 9.a アフリカ諸国、後発開発途上国、内陸開発途上国及び小島嶼開発途上国への金融・テクノロジー・技術の支援強化を通じて、開発途上国における持続可能かつレジリエントなインフラ開発を促進する。
- Goal11 包摂的で安全かつレジリエントで持続可能な都市及び人間居住を実現する
- 2020 年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対するレジリエンスを目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組 2015-2030 に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。
- 11.c 財政的及び技術的な支援などを通じて、後発開発途上国における現地の資材を用いた、 持続可能かつレジリエントな建造物の整備を支援する。

Goal13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対するレジリエンス及び適応 の能力を強化する。

Goal14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

14.2 2020 年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、レジリエンスの強化などによる持続的な管理と 保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。

## 地域住民によるランドスケープのレジリエンス評価



#### SEPLSのレジリエンス指標

- IPSIの協力活動 (UNU、IGES、Bioversity International, UNDPが作成)
- 5分野の20指標を用いて、レジリエンスに関係するSEPLSの様々な側面を評価
- 住民自らが評価を行うことで、レジリエンス向上のための方策検討や行動を 促す

#### **石川県珠洲市でのワークショップ** (2016年2月) 日置地区の15名が参加。異なる年代や立場の住民が評価理由を議論し、 地域の課題に対する意見を交換。 19.資源利用・生産の移動、<sup>1. 地域食材の消費</sup> 2.在来作物の保全・利用 18.自然の活用による空間向 3.共布资源 生計面は低評価。「収入 が十分でなく多くの仕事を 4.土地利用の多様性 17.収入版の多さ 農林水産業 暮らし・生計・ しないと生活できない厳し 概ね高評価。 2と生き物 5.自然・文化的に重要な場所 さがある」 16.健康状態 「卵・牛乳は購入する 健康面は、高評価。 自然 が、地元でとれるもの 15.社会・経済的インフラの整 6.異なる土地や場所のつなが 環境 は積極的に消費して いる」 自然資源の 14.地域内の基 7.自然災害からの回復 管理や 「自然環境は恵まれ 13.自然資源に関する較える 社会面 農業・環境に関する新たな 知識や新たな ているけど、利用は い・協力 技術 昔と比べると減って 12.自然資源の規則や決め高 9.知識・伝統文化の継承 いる」 11.土地・漁場や資源の権利 9-2.知識・伝統文化の記録 10.女性の知識・経験・技術

## 自然の恵みと脅威をとらえる構図





# 自然資源の重層的ガバナンス



- ◆ 自然資本の劣化を防ぎ、生態系 サービスの持続的な供給を可能 にする共同管理のメカニズムの 創出が必要。
- ◆ 多様な主体が参加し、水平的に協力するための新しいガバナンスメカニズム(新たなコモンズ)の形態の解明が必要。
- ◆ ボトムアップ型の地域での活動 を促進しつつ、それらとグロー バルネットワークとをつなぐよ うな、重層的ガバナンス構造が 効果的。



